

October 7, 2019

【前日の為替概況】ドル円、9月NFP+13.6万人で106.61円、失業率3.5%で107.13円へ

4日のニューヨーク外国為替市場でドル円はほぼ横ばい。終値は106.94円と前営業日NY終値(106.92円)と比べて2銭程度のドル高水準だった。9月米雇用統計で非農業部門雇用者数が前月比13.6万人増と予想の14.5万人増を下回ったことが分かったと円買い・ドル売りが先行。平均時給が予想を下回ったことも相場の重しとなり、一時106.61円と日通し安値を付けた。しかし、失業率が3.5%と50年ぶりの低水準となり、米景気に対する過度な減速不安が和らいだことも相場の支援材料となり107.13円まで反発した。今週は低調な米経済指標の発表が相次ぎ、景気後退への懸念が強まっていただけに、比較的堅調な雇用統計を受けて投資家心理が改善したようだ。もともと、107円台での滞空時間は短かった。米10年債利回りが一時1.5051%前後まで低下したことなどが相場の重荷となり、106.81円付近まで押し戻される場面があった。米利下げ期待も根強かった。

パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長はワシントンでのイベントで、米雇用統計の結果については直接の言及を避けたいと、「米経済はいくつかのリスクに直面しているが、全体的には良好な環境にある。われわれの役割は可能な限り長くそこにとどめることだ」などと述べた。

ユーロドルは4日続伸したものの、一日を通じて大きな方向感が出なかった。終値は1.0979ドルと前営業日NY終値(1.0965ドル)と比べて0.0014ドル程度のユーロ高水準。米重要指標の発表を前に1.09ドル台後半での値動きが続いていたが、米雇用統計が発表されると買いと売りが交錯した。米雇用指標の結果が強弱入り混じる内容だったことから、1.0998ドルまで上げたもののすぐに1.0957ドルの本日安値まで売り込まれた。市場では「株価は堅調だが香港のデモ激化や米大統領の弾劾調査など複数のリスク要因があるため、週末を控えてポジションを傾けにくい」との声が聞かれた。

ユーロ円は3営業日ぶりに反発。終値は117.39円と前営業日NY終値(117.22円)と比べて17銭程度のユーロ高水準だった。しばらくは117円台前半での狭いレンジ取引が続いていたが、NY市場に入り米国株相場が堅調に推移すると、投資家のリスク志向が改善し円売り・ユーロ買いが優勢となり117.49円と日通し高値を付けた。

【本日の東京為替見通し】ドル円、第13回米中通商協議への警戒感から上値が重い展開か

本日の東京市場のドル円は、本日から米中次官級通商協議や10-11日の第13回米中通商協議への警戒感から上値が重い予想される。

第13回米中通商協議では、中国側が米国産農産物の輸入再開などの歩み寄りを示し、トランプ米大統領も「暫定合意」を目指していることで進展期待が高まっている。しかし、「中国は米国との通商合意に向けて協議の範囲を狭める模様」と報じられ、トランプ米大統領が「部分合意」「悪い合意」は望まないと述べ、ナバロ米大統領補佐官(通商担当)も「中国と重要な合意を得るか、合意なしかどうか」と述べていることで、決裂の可能性は残されている。さらに米下院司法委員会によるトランプ米大統領のウクライナゲートに関する弾劾調査が開始されていることで、トランプ米政権による米中通商協議への優先度が後退する可能性もある。また、米上下両院外交委員会で、「香港人権・民主主義法案」を可決されたことに対して中国側が内政干渉として反発していること、香港政府がデモ参加者の覆面を禁止する「緊急状況規則条例」の発動を決定したことで、香港問題が俎上に上がる可能性が高まっていることも、第13回米中通商協議での合意が先送りとなる可能性に要警戒か。もし合意に至らなかった場合、15日に対中制裁関税率(約2500億ドル)が25%から30%へ引き上げられる。

29-30日の米連邦公開市場委員会(FOMC)に関しては、0.25%の第3次予防的利下げの確率が上昇しており、年内では0.35%の利下げを織り込んでいる。

アトランタ地区連銀の米国国内総生産(GDP)の推計値「GDP Now」では、第3四半期GDP成長率は前年比+1.8%、米供給管理協会(ISM)によると、米9月ISM製造業景気指数はGDP成長率前年比+1.5%、非製造業景気指数はGDP成長率前年比+1.4%に対応しており、景気減速への警戒感が高まっている。

ドル円のテクニカル分析では、トリプル・トップ(108.48円・108.47円・108.47円)のネックライン106.96円を下抜けていることで、最小目標値105.44円が点灯している。そして、このトリプル・トップ水準は、9月日銀短観での大企業・製造業の2019年度想定為替レート108.68円に対応している。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◇ 9月外貨準備高
- 14:00 ◇ 8月景気動向指数速報値（予想：先行 91.8／一致 99.5）

<海外>

- 07:45 ◎ ジョージ米カンザスシティ連銀総裁、講演
- 15:00 ◎ 8月独製造業新規受注（予想：前月比▲0.8%／前年同月比▲7.5%）
- 23:20 ◎ カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁、講演
- 8日 04:00 ◇ 8月米消費者信用残高（予想：160億ドル）
- 豪州は6日から夏時間に移行済み
- 豪州（労働者の日）、香港（重陽節）、中国（国慶節）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

4日 07:51 クラリダ米連邦準備理事会(FRB)副議長

「FRBの目標は現在の状況で経済を維持すること」

「米経済は良い状況であり、インフレは安定している」

「世界経済の減速が利下げを後押しする動機付けになっている」

4日 09:43 ナバロ米大統領補佐官(通商担当)

「中国との小規模な合意はないだろう」

「中国と重要な合意を得るか合意なしかだろう」

4日 22:40

「FRBは雇用統計の結果で利下げを抑止するべきではない」

「ドルは過大評価されている」

4日 13:03 エリス豪準備銀行(RBA)総裁補

「利下げによる設備投資への直接的な影響を見つけることは困難」

4日 14:15 ポンペオ米国務長官

「貿易関税を巡って欧州連合(EU)と必ず協議する予定」

4日 23:01

「中国は賄賂を介してインフラ取引を勝ち取っている」

4日 20:44 デギンドス欧州中央銀行(ECB)副総裁

「金融政策で全てできるわけではない」

「経済には下向きのリスクがある」

4日 22:53 クドロー米国家経済会議(NEC)委員長

「米中貿易協議では何かサプライズがあるかもしれない、しかし予想はできない」

「弾劾調査は貿易協議には影響を与えない」

4日 23:54 トランプ米大統領

「中国と良い取引ができるだろう」

5日 01:23 ポスティック米アトランタ連銀総裁

「貿易に対する不確実性が企業の投資を遅らせている」

「関税の最終ラウンドは、消費者に直接打撃を与える可能性」

5日 01:26 ローゼンブレン米ボストン連銀総裁

「財政の安定を心配する必要がある」

「失業率は非常に低く、安定した経済下で期待されるような雇用の伸びを実現している」

「労働市場が逼迫している場合、賃金と価格は時間とともに上昇すると予想」

5日 02:52 カシユカリ米ミネアポリス連銀総裁

「金融政策は経済を前進させる大きな役目がある」

5日 03:03 パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長

「米経済はリスクを抱えているものの全体的に良好な状態にある」

「我々の政策や手段は効果を維持している」

「インフレは目標の2%に近づいているものの、やや下回っている」

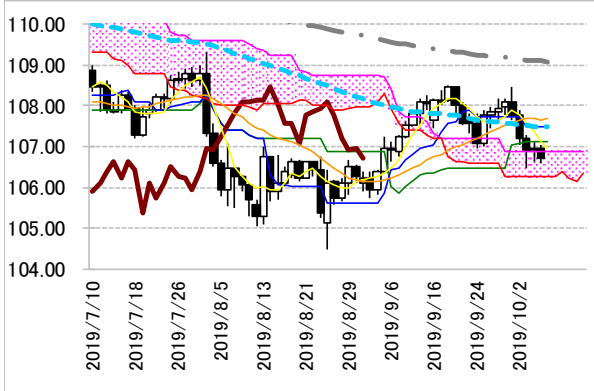
5日 05:19 メスター米クリーブランド連銀総裁

「米国経済は全体的にかなり順調」

「製造の弱さが波及しているかどうかを確認したい」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

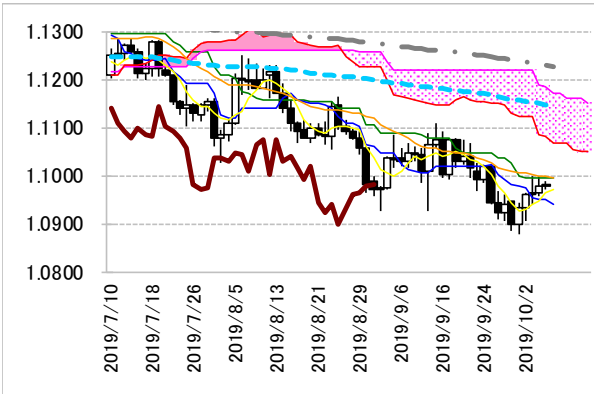


<ドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。しかし、トリプル・トップ(108.48円・108.47円・108.47円)のネック・ライン106.96円を下抜けたことで、最小目標値105.44円が点灯している。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上回れば手仕舞い。

レジスタンス1	107.48(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	106.94
サポート1	106.25(日足一目均衡表・雲の下限)
サポート2	105.74(9/3 安値)

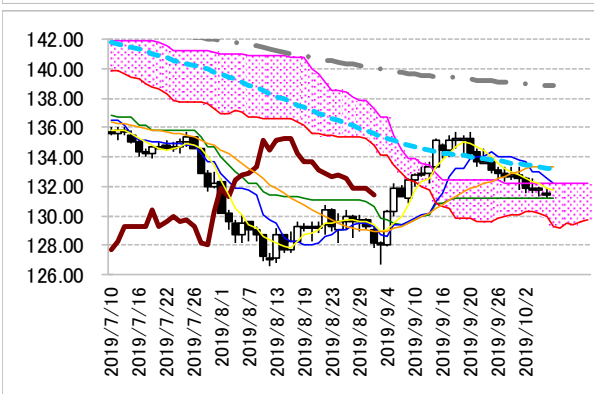


<ユーロドル＝10/1 安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回って引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかし、底値圏での孕み線、4日連続陽線で反発の可能性が示唆されている。

本日は、10月1日安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1083(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	1.0979
サポート1	1.0879(10/1 安値)

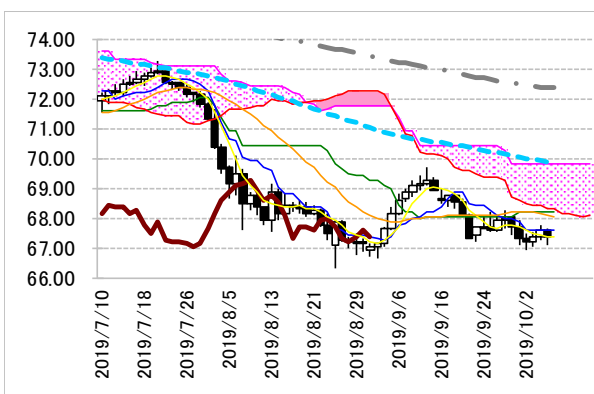


<ポンド円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

小陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の中で引けていることで、買いシグナルが優勢な展開となっている。しかしながら、転換線を下回って引けていることで下落トレンドが継続する可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	132.59(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	131.89
サポート1	131.21(日足一目均衡表・基準線)



<NZドル円＝基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。遅行スパンは実線を上回り、雲の中で引けているものの、一目・転換線は一目・基準線を下回り、一目・転換線を下回って引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。

本日は、基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	68.18(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	67.59
サポート1	66.94(10/2 安値)

